

目 次

●日本語Ⅰ	1
●日本語Ⅰ	2
●日本語Ⅰ	3
●日本語Ⅱ	4
●日本語Ⅲ	5
●日本語Ⅲ	6
●日本語Ⅲ	7
●日本語Ⅳ	8
●日本事情	9

2010年度 前期	曜日・校時 木1,木3	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100575001003 授業科目(英語名)	●日本語 I Advanced Japanese I		
対象年次 1年,2年	講義形態 演習科目	教室 [全]103	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 留学生用科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス / 研究室 / TEL / オフィスアワー 埴田 美有紀 / miyut@nagasaki-u.ac.jp / 留学生センター二階 / 095-819-2240 / 火曜日 3、4校時(他の曜日、時間でも可能な場合あり。Eメールでも可能)			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標			
<p>ねらい: 今後の大学での勉強に役立つ技能の習得、上達を目的とする。</p> <p>授業方法(学習指導法): 読解、作文、ディスカッション、発表。グループ活動あり。</p> <p>到達目標: 時事問題や専門的な内容についての記事を理解するだけでなく、自分の意見が持てるようになる。自分の意見をまとめてレポートが書けるようになる。グループで話し合って意見をまとめ、発表できるようになる。</p>			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む)			
<p>三週間で一つの記事について読む、書く、発表する、を行います。</p> <p>1 週目が新聞などの記事の読解、読解問題、レポートの書き方の学習、レポート下書き、</p> <p>2 週目が発表のしかたの学習、発表の準備とレポートの清書、</p> <p>3 週目が発表原稿の修正と発表をします。これを四回繰り返します。</p> <p>1 回目の授業ではこの流れを短くしたものを一度体験してもらい、14・15 回目の授業はまとめとして、今までのに学んだことを使ってレポートの作成と発表をしてもらいます。</p> <p>第 1回 4月15日:オリエンテーション、短い記事の読解、レポート作成、発表準備、発表</p> <p>第 2回 4月22日:記事① 読解、内容理解チェック、記事についてディスカッション、レポートの書き方①、レポート下書</p> <p>第 3回 5月 6日:記事① 発表のしかた①、グループで発表準備、レポート修正</p> <p>第 4回 5月13日:記事① 発表原稿修正、発表</p> <p>第 5回 5月20日:記事② 読解、内容理解チェック、記事についてディスカッション、レポートの書き方②、レポート下書き</p> <p>第 6回 5月27日:記事② 発表のしかた②、グループで発表準備、レポート修正</p> <p>第 7回 6月 3日:記事② 発表原稿修正、発表</p> <p>第 8回 6月10日:記事③ 読解、内容理解チェック、記事についてディスカッション、レポートの書き方③、レポート下書き</p> <p>第 9回 6月17日:記事③ 発表のしかた③、グループで発表準備、レポート修正</p> <p>第10回 6月24日:記事③ 発表原稿修正、発表</p> <p>第11回 7月 1日:記事④ 読解、内容理解チェック、記事についてディスカッション、レポートの書き方④、レポート下書き</p> <p>第12回 7月 8日:記事④ 発表のしかた④、グループで発表準備、レポート修正</p> <p>第13回 7月15日:記事④ 発表原稿修正、発表</p> <p>第14回 7月22日:記事⑤ 読解、内容理解チェック、レポート作成</p> <p>第15回 7月29日:記事⑤ グループで発表準備、発表</p>			
キーワード			
教科書・教材・参考書	教材:「留学生のための日本語作文演習(中上級用)-第 5 版-(初回に配布)、新聞記事など(毎回配布)。 参考図書:「日本語学習者が作文を書くための用例集」宮原彬著、凡人社、1900 円+税		
成績評価の方法・基準等	授業への参加度 20%、グループ活動での積極性 10%、他グループの発表を聞く態度 10%、発表 30%、レポート 30% ※出席:遅刻三回で欠席一回とみなします。 ※レポート・発表は辞書を使ってもかまいません。インターネットや本の文を使うときは引用文の後ろに()を書いて、著者名と書かれた年を書き、作文の最後に引用文献を書いてください。書いていない場合は剽窃(ひょうせつ)と考え、単位を出しません。		
受講要件(履修条件)	日本語能力試験 1 級合格相当の日本語能力を有する留学生。		
本科目の位置づけ 学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

2010年度 前期	曜日・校時 金1,金3	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100575001002 授業科目(英語名)	●日本語 I Advanced Japanese I		
対象年次 1年,2年	講義形態 演習科目	教室 [全]103	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 留学生用科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス / 研究室 / TEL / オフィスアワー 嶋津 拓 / shimazu@nagasaki-u.ac.jp / 留学生センター / 095-819-2238 / 金曜日2校時、4校時			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標			
<p>ねらい: 日本の大学学部で学習・研究するのに必要な上級レベルの日本語能力を習得する。とくに日本語で書かれた各種文書を読解する能力の習得を目指す。併せて、文書で自己を表現(あるいはアピール)する際に必要となる日本語のスキルとマナーを学ぶ。</p> <p>授業方法(学習指導法): ① 日本語で書かれた、様々な種類の文章(新聞、雑誌、概説書、学術論文)を読む。 ② 日本語で各種依頼文書・申請書等を書く。</p> <p>到達目標: ① 上級レベルの語彙・文字を習得するとともに、論理の構成や展開パターンを把握する能力、速読する能力、大意を理解する能力を獲得する。 ② 文書で自己を表現(あるいはアピール)する能力を獲得する。</p>			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む)			
<p>読解の時間においては、毎回、予習してあることを前提に、授業では、(1)本文の音読、(2)文型・語彙・表現の確認、(3)段落ごとの内容確認、(4)段落と段落の関係確認、(5)テキストの内容に関するディスカッション等を行う。また、自己表現の時間においては、(1)モデル文書の読解、(2)適切または語彙・表現の確認、(3)不適切な語彙・表現の確認、(4)作文等を行う。</p> <p>ただし、受講者の日本語能力・関心・専攻によっては、授業内容を変更する場合もある。</p>			
<p>第1回 4月16日 授業概要説明／新聞記事(日本経済新聞)を読む(1) 第2回 4月23日 新聞記事(日本経済新聞)を読む(2) 第3回 4月30日 電子メール(依頼文書)を書く(1) 第4回 5月7日 電子メール(依頼文書)を書く(2) 第5回 5月14日 雑誌を読む(1) 第6回 5月21日 雑誌を読む(2) 第7回 5月28日 履歴書を書く 第8回 6月4日 概説書を読む(1) 第9回 6月11日 概説書を読む(2) 第10回 6月18日 申請書(自己PR)を書く(1) 第11回 6月25日 申請書(自己PR)を書く(2) 第12回 7月2日 学術論文を読む(1) 第13回 7月9日 学術論文を読む(2) 第14回 7月16日 学術論文を読む(3) 第15回 7月23日 授業のまとめ・授業評価・</p>			
キーワード	読解、自己表現、自己アピール		
教科書・教材・参考書	プリント教材(担当教員が用意する)		
成績評価の方法・基準等	評価は、授業参加の積極性 30%、授業中のリスポンス内容 30%、課題(作文)40%によって行う。		
受講要件(履修条件)	日本語能力試験1級合格相当の日本語能力を有する留学生。なお、本科目の受講を希望する学生は、必ず留学生センターで日本語プレースメントテストを受験すること。		
本科目の位置づけ 学習・教育目標	日本の大学学部で学習・研究するのに必要な日本語能力の習得。		
備考(準備学習等)	毎回、必ず予習をしてくること。 1校時目と3校時目の両方とも出席すること。一方のみの出席は認めない。		

2010年度 前期	曜日・校時 火1,火3	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100575001001 授業科目(英語名)	●日本語 I Advanced Japanese I		
対象年次 1年,2年	講義形態 演習科目	教室 [全]103	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 留学生用科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス / 研究室 / TEL / オフィスアワー 高野 泰邦 / ytakano@nagasaki-u.ac.jp / 留学生センター / 819-2241 / 木曜日(10:30~12:00)、金曜日(10:30~12:00)			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: 現代日本社会の諸課題をテーマとした文章を素材に、大学生活に必要な日本語の総合的な技能を習得させる。 授業方法(学習指導法): 学習目標が容易に理解できるように、以下の要領で授業を展開する。(1)テーマについて背景となる情報を提供する。(2)難解語句等をわかりやすく説明する。(3)適当な長さの文章を学生に音読させ、その部分の要旨を述べさせる。(4)必要があると判断した場合、質問等をして理解しているかどうかを確認する。(5)読後、テーマ全体についての意見や感想を述べさせる。なお、発表のための準備として、テーマを決めさせ作文を書かせる、数回にわたり作文を添削する、発表の準備をする等の活動を経て、発表させる。 到達目標: 論理的に構成された文章が読める。論理的に考えることができる。あるテーマについてまとまった考えを書くことができる。自分の意見を論理的に述べるができる。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 現代日本社会を反映したさまざまな文章を読み、現代日本社会や日本文化についての理解を深めるとともに、それらについて学習者が論理的に組み立てた考えを発表する機会を提供することにより、学習者に日本語の総合的な表現能力を身に付けさせる。 各回2コマ 1回 4月13日 オリエンテーション／家族とは何か(1) 2回 4月20日 家族とは何か(2) 3回 4月27日 長生きは幸福か(1) 4回 5月11日 長生きは幸福か(2)／躰と教育(1) 5回 5月18日 躰と教育(2) 6回 5月25日 体罰(1) 7回 6月1日 体罰(2)／体罰と成長の関係(1) 8回 6月8日 体罰と成長の関係(2) 9回 6月15日 尊厳死(1) 10回 6月22日 尊厳死(2) 11回 6月29日 読解のまとめ 12回 7月6日 表現演習 13回 7月13日 表現演習 14回 7月20日 発表会・質疑応答 15回 7月27日 発表会・質疑応答／総まとめ／学生による授業評価			
キーワード	日本社会の諸相、読む、考える、書く、意見を述べる		
教科書・教材・参考書	「日本の論点2007」から抜粋したものなど		
成績評価の方法・基準等	予習 10% 授業への参加度 30% 作文 30% 発表 30% を総合的に評価する。		
受講要件(履修条件)	日本語能力試験1級合格程度の日本語能力を有する留学生		
本科目の位置づけ 学習・教育目標	上級日本語		
備考(準備学習等)			

2010年度 前期	曜日・校時 水1,水3	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100575003001 授業科目(英語名)	●日本語Ⅱ Advanced Japanese II		
対象年次 1年,2年	講義形態 演習科目	教室 留学生センター	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 留学生用科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス / 研究室 / TEL / オフィスアワー 永井 智香子 / nagai@nagasaki-u.ac.jp / 留学生センター 2階(国際交流プラザ、国際交流課2F) / 095-819-2239 / 水曜 4校時			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標			
<p>ねらい: 読解教材の内容をしっかりと把握すると同時にそこに出てくる語彙、文型などの運用能力を高める 授業方法(学習指導法): 教科書にそって進める 到達目標: 上級前半レベルの読解力と日本語運用能力を身につける</p>			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む)			
<p>第1回 4月14日 ユニット1 第2回 4月21日 ユニット2 第3回 4月28日 ユニット3 第4回 5月12日 ユニット4 第5回 5月19日 ユニット5 第6回 5月26日 中間テスト 第7回 6月 2日 ユニット6 第8回 6月 9日 ユニット7 第9回 6月16日 ユニット8 第10回 6月23日 ユニット9 第11回 6月30日 ユニット10 第12回 7月 7日 期末テスト 第13回 7月14日 テスト返却、フィードバック 第14回 7月21日 総復習 第15回 7月28日 総復習・</p>			
キーワード	上級読解		
教科書・教材・参考書	中級から上級への日本語 鎌田修著 The Japan Times ※テキスト変更の可能性有り、変更する場合は初日のオリエンテーションで伝える。		
成績評価の方法・基準等	中間テスト、期末テスト、小テスト、宿題提出、 出席 にて評価 詳しくは初日のオリエンテーションで提示する		
受講要件(履修条件)	日本語能力試験 2級合格相当の日本語能力を有する留学生		
本科目の位置づけ 学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

2010年度 後期	曜日・校時 火1,火3	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100575005003 授業科目(英語名)	●日本語Ⅲ Advanced Japanese III		
対象年次 1年,2年	講義形態 演習科目	教室 [全]103	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 留学生用科目		
担当教員(科目責任者)/Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 永井 智香子 / nagai@nagasaki-u.ac.jp / 留学生センター2階(国際交流プラザ2F、国際交流課2F) / 095-819-2239 / 火曜 4校時			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標			
<p>ねらい: テレビの主にドキュメンタリー番組を視聴することを通じて日本語運用能力を高める 授業方法(学習指導法): 視聴する番組に関連したことについて話し合う→番組視聴→内容確認→語彙、文型の確認 到達目標: 日本語上級の力をより高める</p>			
授業内容(概要)/ 授業内容(毎週毎の授業内容を含む)			
第1回	10月5日	オリエンテーション、ウォーミングアップ	
第2回	10月12日	番組視聴 日本語運用練習	
第3回	10月19日	小テスト	番組視聴 日本語運用練習
第4回	10月26日	小テスト	番組視聴 日本語運用練習
第5回	11月2日	小テスト	番組視聴 日本語運用練習
第6回	11月9日	小テスト	番組視聴 日本語運用練習
第7回	11月16日	小テスト	番組視聴 日本語運用練習
第8回	11月30日	小テスト	番組視聴 日本語運用練習
第9回	12月7日	小テスト	番組視聴 日本語運用練習
第10回	12月14日	小テスト	番組視聴 日本語運用練習
第11回	12月21日	小テスト	番組視聴 日本語運用練習
第12回	1月11日	小テスト	番組視聴 日本語運用練習
第13回	1月18日	小テスト	番組視聴 日本語運用練習
第14回	1月25日	小テスト	番組視聴 日本語運用練習
第15回	2月1日	小テスト	番組視聴 リスニング小テスト
キーワード	聴解		
教科書・教材・参考書	プリント教材		
成績評価の方法・基準等	小テスト 出席 詳しくは初日のオリエンテーションで伝える		
受講要件(履修条件)	日本語能力試験1級合格相当の日本語能力を有する留学生		
本科目の位置づけ 学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

2010年度 後期	曜日・校時 金1,金3	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100575005002 授業科目(英語名)	●日本語Ⅲ Advanced Japanese III		
対象年次 1年,2年	講義形態 演習科目	教室 [全]103	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 留学生用科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス / 研究室 / TEL / オフィスアワー 松本 久美子 / kumiko-m@nagasaki-u.ac.jp / 留学生センター 2階 / / 木 2・4			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標			
<p>ねらい: 日本の大学の学部レベルで講義を受けたり、ゼミに参加したりする際に必要な総合的な日本語能力を養成する。</p> <p>授業方法(学習指導法): 発表と発表のテーマに沿った討論を行う。学生は2~4人でグループを組み、発表の担当者として、順番に発表と発表の内容に沿った討論の司会進行役を務める。学期中に2回、発表の担当を課す。発表担当者は必要な資料を用意し、担当教員に事前に発表内容に関するチェックを受けなければならない。</p> <p>到達目標: 受講学生が、発表の方法、討論の際に必要な表現等を学び、日本語で自分の考えをまとめて発表したり、その内容について討論したりすることができるようになることを目標とする。</p>			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む)			
<p>各回2コマ。</p> <p>1コマ毎に発表担当者を決め、発表とその内容についての討論をクラス全体で行う。</p> <p>新聞記事の中の語彙等に関する小テストを1時限目の最初に実施する。</p> <p>第1回 10月1日 :オリエンテーション 第2回 10月8日 :発表の仕方(注意事項等) 第3回 10月15日:発表の仕方(モデル授業) 第4回 10月22日:小テスト 発表・討論 第5回 10月29日:小テスト 発表・討論 第6回 11月5日 :小テスト 発表・討論 第7回 11月12日:小テスト 発表・討論 第8回 11月26日:小テスト 発表・討論 第9回 12月3日:小テスト 発表・討論 第10回 12月10日:小テスト 発表・討論 第11回 12月17日:小テスト 発表・討論 第12回 12月24日:小テスト 発表・討論 第13回 1月7日:小テスト 発表・討論 第14回 1月21日:小テスト 発表・討論 第15回 1月28日:まとめ/授業評価</p>			
キーワード			
教科書・教材・参考書	ハンドアウト および 新聞記事		
成績評価の方法・基準等	評価は、発表およびその準備 40%、討論参加状況30%、テスト 30% によって行う。		
受講要件(履修条件)	日本語能力1級試験合格相当の日本語能力を有する留学生。		
本科目の位置づけ 学習・教育目標			
備考(準備学習等)	1時限目と3時限目の両方とも出席すること。一方のみの出席は認めない。		

2010年度 後期	曜日・校時 木1,木3	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100575005001 授業科目(英語名)	●日本語Ⅲ Advanced Japanese III		
対象年次 1年,2年	講義形態 演習科目	教室 [全]103	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 留学生用科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス / 研究室 / TEL / オフィスアワー 高野 泰邦 / ytakano@nagasaki-u.ac.jp / 留学生センター / 819-2241 / 木曜日(1030~12:00)、金曜日(10:30~12:00)			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: 現代日本社会が抱える諸課題をテーマに取り上げた文章を素材に、大学生生活に必要な日本語の総合的な技能を身に付けさせる。 授業方法(学習指導法): 学習目標が容易に理解できるように、以下のような要領で授業を展開する。(1)各テーマについて背景となる情報を提供する。(2)難解語句などをわかりやすく説明する。(3)適当な長さの文章を学生に音読させ、その部分の要旨を述べさせる。(4)必要があると判断した場合は質問等をして理解しているかどうかを確認をする。(5)読後、テーマ全体について感想等を述べさせる。なお、発表のための準備として、テーマを決めさせ作文を書かせる、数回にわたって作文を添削する、発表の練習をする等の活動を経て、発表させる。 到達目標: 論理的に構成された文章が読める。論理的に考えることができる。あるテーマについてまとまった考えを書くことができる。意見を論理的に述べることができる。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 現代日本社会を反映した文章を読み、現代日本社会や日本文化についての理解を深めるとともに、それらについて学習者が論理的に組み立てた考えを発表する機会を提供することにより、学習者に日本語の総合的な表現能力を身に付けさせる。 各2コマ 1回10月 7日 オリエンテーション/私たちにとって邦とは何か(1) 2回10月14日 私たちにとって国とは何か(2) 3回10月21日 教員の質を向上させるには(1) 4回10月28日 教員の質を向上させるには(2)/有効なニート支援とは(1) 5回 11月 4日 有効なニート支援とは(2) 6回 11月 11日 犯罪少年の更生は可能か(1) 7回 11月 18日 犯罪少年の更生は可能か(2)/労働問題に盲点はないか(1) 8回 11月 25日 労働問題に盲点はないか(2) 9回12月 2日 日本的経営の極意とは(1) 10回 12月 9日 日本的経営の極意とは(2) 11回 12月16日 読解のまとめ 12回 1月 6日 表現演習 13回 1月13日 表現演習 14回 1月20日 発表会・質疑応答 15回 1月27日 発表会・質疑応答/総まとめ/学生による授業評価			
キーワード	日本社会の諸相、読む、考える、書く、意見を述べる		
教科書・教材・参考書	「日本の論点2007」から抜粋したもの、など		
成績評価の方法・基準等	予習 10% 授業への参加度 30% 作文 30% 発表 30% を総合的に評価する。		
受講要件(履修条件)	日本語能力試験1級合格程度の日本語能力を有する留学生		
本科目の位置づけ 学習・教育目標	上級日本語		
備考(準備学習等)			

2010年度 後期	曜日・校時 水1,水3	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100575007001 授業科目(英語名)	●日本語Ⅳ Advanced Japanese IV		
対象年次 1年,2年	講義形態 演習科目	教室 留学生センター	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 留学生用科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス / 研究室 / TEL / オフィスアワー 嶋津 拓 / shimazu@nagasaki-u.ac.jp / 留学生センター / 095-819-2238 / 水曜日2校時、4校時			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標			
<p>ねらい: 日本の大学学部で学習・研究するのに必要な上級レベルの日本語能力(とくに読解能力)を習得する。 授業方法(学習指導法): 日本語で書かれた、様々な種類の文章(新聞・雑誌・概説書)を読む。 到達目標: 上級レベルの文法や語彙・文字を習得するとともに、上級レベルの文章を読解する能力を獲得する。</p>			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む)			
<p>毎回、予習してあることを前提に、授業では、(1)本文の音読、(2)文型・語彙・表現の確認、(3)段落ごとの内容確認、(4)段落と段落の関係確認、(5)テキストの内容に関するディスカッション等を行う。</p> <p>ただし、受講者の日本語能力・関心・専攻によっては、授業内容を変更する場合もある。</p> <p>第1回 10月6日 授業概要説明／情報を得るために読む(1) 第2回 10月13日 情報を得るために読む(2) 第3回 10月20日 情報を得るために読む(3) 第4回 10月27日 大意を理解するために読む(1) 第5回 11月10日 大意を理解するために読む(2) 第6回 11月17日 大意を理解するために読む(3) 第7回 11月24日 筆者の主張を把握するために読む(1) 第8回 12月1日 筆者の主張を把握するために読む(2) 第9回 12月8日 筆者の主張を把握するために読む(3) 第10回 12月15日 筆者の立場を理解するために読む(1) 第11回 12月22日 筆者の立場を理解するために読む(2) 第12回 1月12日 歴史を扱った文章を読む(1) 第13回 1月19日 歴史を扱った文章を読む(2) 第14回 1月26日 文章を整理して読む 第15回 2月2日 まとめ／授業評価</p>			
キーワード	日本語読解能力		
教科書・教材・参考書	プリント教材(担当教員が用意する)		
成績評価の方法・基準等	評価は、授業参加の積極性 30%、授業中のリスポンス内容 30%、課題(作文)40%によって行う。		
受講要件(履修条件)	日本語能力試験2級合格相当の日本語能力を有する留学生。なお、本科目の受講を希望する学生は、必ず留学生センターで日本語プレースメントテストを受験すること。		
本科目の位置づけ 学習・教育目標	日本の大学学部で学習・研究するのに必要な日本語能力(とくに読解能力)の習得。		
備考(準備学習等)	毎回、必ず予習をしてくること。 1校時目と3校時目の両方とも出席すること。一方のみの出席は認めない。		

2010年度 後期	曜日・校時 水4	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100575009001 授業科目(英語名)	●日本事情 Japanese Studies		
対象年次 1年, 2年	講義形態 講義科目	教室 [全]103	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 留学生用科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス / 研究室 / TEL / オフィスアワー 松本 久美子 / kumiko-m@nagasaki-u.ac.jp / 留学生センター 2階 / / 水5			
担当教員(オムニバス科目等) 松本 久美子, 高野 泰邦, 嶋津 拓, 永井 智香子, 多田 美有紀, 松村 真樹			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標			
<p>ねらい: 現代日本社会の様々な側面について学ぶことにより、留学生活に必要な日本事情に関する知識を深め、日本社会についてよりよく理解できるようにする。</p> <p>授業方法(学習指導法): 留学生センターの教員がそれぞれの専門の立場から日本事情に関する講義をオムニバス形式で行う。</p> <p>到達目標: 現代日本社会についてよりよく理解できるようになる。</p>			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む)			
オムニバス形式による講義。			
第1回	10月6日	オリエンテーション・異文化適応	松本久美子
第2回	10月13日	異文化間コミュニケーション	松本久美子
第3回	10月20日	言語から見た日本社会①	多田美有紀
第4回	10月27日	言語から見た日本社会②	多田美有紀
第5回	11月10日	言語から見た日本社会③	多田美有紀
第6回	11月17日	日本の方言①	永井智香子
第7回	11月24日	日本の方言②	永井智香子
第8回	12月1日	1950年代の日本映画-「二枚目」とは何か	嶋津拓
第9回	12月8日	日本の「漫画」と「まんが」と「マンガ」	嶋津拓
第10回	12月15日	日本の言語教育①	高野泰邦
第11回	12月22日	日本の言語教育②	高野泰邦
第12回	1月12日	日本の言語教育③	高野泰邦
第13回	1月19日	高度成長と日本社会	松村真樹
第14回	1月26日	高度成長の地方への影響	松村真樹
第15回	2月2日	日本の少子高齢化	松村真樹
キーワード			
教科書・教材・参考書	当日、講義担当者が必要な資料を配布する。		
成績評価の方法・基準等	レポート 75%、授業への積極的な参加状況 25%		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ 学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

